

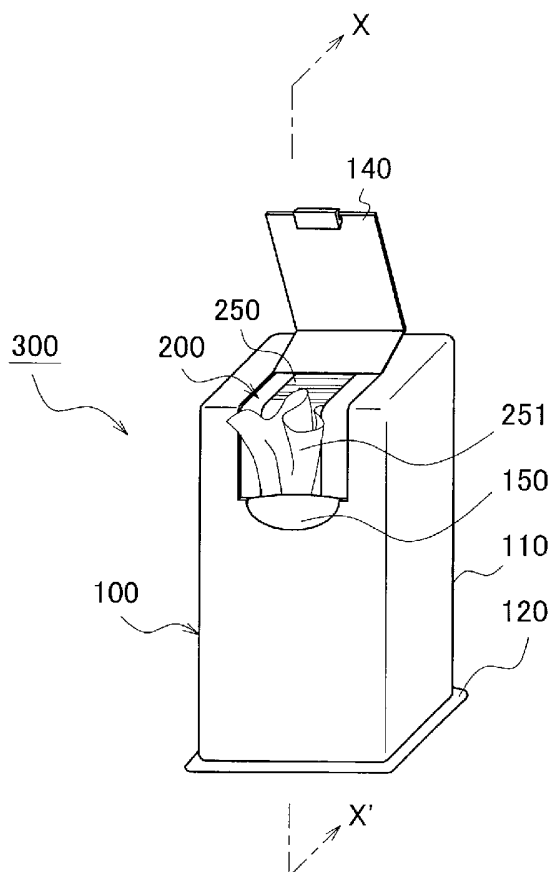


- (51) 国際特許分類:
B65D 83/08 (2006.01) *B65D 77/04* (2006.01)
A47K 7/00 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2005/017607
- (22) 国際出願日: 2005 年 9 月 26 日 (26.09.2005)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願2004-280306 2004 年 9 月 27 日 (27.09.2004) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): ユニ・チャーム株式会社 (UNI-CHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 斎藤 郁哉 (SAITO, Ikuya) [JP/JP]; 〒7691602 香川県三豊郡豊浜町和田浜
- 高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社 テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 杉浦 さち (SUGIURA, Sachi) [JP/JP]; 〒7691602 香川県三豊郡豊浜町和田浜 高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社 テクニカルセンター内 Kagawa (JP).
- (74) 代理人: 正林 真之, 外(SHOBAYASHI, Masayuki et al.); 〒1700013 東京都豊島区東池袋 1 丁目 2 5 番 8 号 タカセビル本館 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

[続葉有]

(54) Title: WET TISSUE PACKAGE BODY

(54) 発明の名称: ウエットティッシュ包装体



(57) Abstract: A wet tissue package body (300) suitably formed in a vertical type and enabling the easy removal of wet tissue. The wet tissue package body comprises a soft package body (200) storing a plurality of wet tissue pieces (250) and in which a first opening area for taking out the wet tissue pieces is formed and an external container (100) storing the soft package body (200), in which a second opening area for taking out the wet tissue pieces (251) is formed near a position corresponding to the first opening area, and having a cover body (140) capable of opening and closing the second opening area. The second opening area is formed in the side upper part of the external container (100), or formed from the side upper part continuously to the upper surface thereof.

(57) 要約: 縦置きタイプに適しウエットティッシュの取り出しが容易な包装体を提供する。このウエットティッシュ包装体 300 は、複数のウエットティッシュ 250 を収容し、ウエットティッシュ片を取り出すための第一開口領域が形成された軟包装体 200 と、軟包装体 200 を収容し、第一開口領域に対応する位置近傍に、ウエットティッシュ片 251 を取り出すための第二開口領域が形成されており、更に、第二開口領域を開閉可能な蓋体 140 が設けられている外装容器 100 とからなり、第二開口領域は、外装容器 100 の側面上部に形成されているか、又は当該側面上部から上面にかけて連続して形成されている。



(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

添付公開書類:

— 国際調査報告書

明 細 書

ウェットティッシュ包装体

技術分野

- [0001] 本発明は、ウェットティッシュを収容する包装体に関し、更に詳しくは、複数のウェットティッシュ片を収容するフィルム状の軟包装体と、この軟包装体を収容する剛性容器とからなる包装体に関する。

背景技術

- [0002] ウェットティッシュのように、水分を含んだ内容物を収容する軟包装体においては、携帯に便利で、取り出し易く、かつ、残ったウェットティッシュを再度使用する際の乾燥を防止するために再封止ができる軟包装体が検討されている。このような軟包装体として、例えば、下記の特許文献1には、袋本体に切れ目を形成して開口部を形成し、その上から、接着剤を介して剥離可能な蓋部材を設けた、化粧用繊維素材等の封入袋が記載されており、開口部を有し、かつ、その開口部の再封止ができるフィルム軟包装体が開示されている。
- [0003] 一方、ウェットティッシュを収容する剛性容器としては、ウェットティッシュが取り出し易く、かつ、残ったウェットティッシュを再度使用する際の乾燥を防止するために開閉可能な蓋体を備える容器が検討されている。例えば、下記の特許文献2には、ミシン目で繋がったロール状のウェットシートを直接収納して、容器の天面に配置された取り出し口より、シートを引き出す構造の容器が開示されている。また、下記の特許文献3には、一枚ずつ切り離されたウェットシート片を折り重ねて積層し、これをウェットシート片が垂直となるように直接収容した容器であって、容器の天面に配置された取り出し口より、シートを引き出す構造の剛性容器が開示されている。
- [0004] また、上記の軟包装体と剛性容器とを組み合わせることも検討されており、例えば下記の特許文献4には、一枚ずつ切り離されたウェットティッシュを折り重ねながら平面状に積層したものをフィルム上の包装シートで覆った状態で収容する軟包装体と、この軟包装体をウェットティッシュ平面が水平となるように横置きに収容する剛性容器とからなる包装体であって、剛性容器が、いわゆるポップアップ式と称されるものであり

、ウェットティッシュ片を引き出して連続的に取り出せるような取出し口を容器天面に備える包装体が開示されている。

特許文献1:実開昭59－99974号公報

特許文献2:実公昭48－33587号公報

特許文献3:特開平8－104377号公報

特許文献4:特開2003－170950号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0005] 上記の特許文献2の容器においては、ミシン目で繋がったシートを容器蓋部に設けられた細いスリットを通ることによる抵抗によってシートを切り離す。このため、イ)使用者が使用する際にミシン目を切り離すのに過度の力を要し、引き出し方によっては、シートของミシン目を切ることができず、不必要に多枚数のシートを取り出してしまふ、ロ)容器内部でミシン目が切れてしまった場合は、一度容器の蓋を外して再度スリット部にシートの端を通さなければならない手間が生じ、その際に使用者はシート全体を素手で扱う事が多いので雑菌などの汚染の可能性が高く非衛生的である、という問題があった。

[0006] また、特許文献3の容器においては、シート積層体を垂直に収容する、いわゆる縦置き構造であるので、横置き構成に比べて設置面積をとらないという利点を有している。しかし、シートを容器の天面に位置する開口部より垂直方向に引き上げて取り出しを行う為、通常においては、開口部と最初に取り出すシートの端との位置関係はズレており、使用者が開口部より指を入れて最初のシートを摘み出すのが困難である。

[0007] また、各シートは所定の重なりを有しており、最初のシートが抜かれたときに、重なりに引き摺られるようにして第二のシートの端が開口部より露出する構造になっている。しかし、特許文献3の容器においては、シートの重なり方向に対して垂直方向に引き出す構造である為、取出し口に向かうに応じて両シートの重なりがなくなり、シートを引き抜いたときに、次のシートの端が開口部より安定的に露出しないという問題があった。

[0008] また、特許文献4の容器においては、一枚ずつ切れているシートを折り重ねてなる

積層体を収納した包装体を用い、容器の天面に配置された比較的広い開口部からシートを取り出す構造であり、収納された各シートが水平に置かれた横型の形状を有している為、持ち運びし難く、設置面積を多く必要とするという問題があった。

[0009] 本発明は、以上のような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、設置面積が少なくて済み、持ち運び易い縦置きタイプに適する包装体であって、しかも、ウェットティッシュ片の取り出しが容易で一枚ずつ安定的に取り出せる包装体を提供することにある。

課題を解決するための手段

[0010] より具体的には、本発明は、以下の構成からなるウェットティッシュ包装体を提供する。

[0011] (1)ウェットティッシュ片の一部を、他のウェットティッシュ片の一部と重ねて折り畳んでなる、複数のウェットティッシュ片を收容し、前記ウェットティッシュ片を取り出すための第一開口領域が形成された軟包装体と、前記軟包装体を收容し、前記收容した状態で前記軟包装体の前記第一開口領域に対応する位置近傍に、前記ウェットティッシュ片を取り出すための第二開口領域が形成されており、更に、前記第二開口領域を覆い、開閉可能な蓋体が設けられている剛性の外装容器と、からなり、前記第二開口領域は、前記外装容器の側面上部に形成されているか、又は当該側面上部から上面にかけて連続して形成されているウェットティッシュ包装体。

[0012] 本発明のウェットティッシュ包装体によれば、收容状態における軟包装体の第一開口領域と、外装容器の第二開口領域とが一致しているので、簡単にウェットティッシュ片を取り出すことができる。そして、外装容器の第二開口領域を、外装容器の側面上部に形成されているか、又は当該側面上部から上面にかけて連続して形成されているものとしたので、外装容器の上面(天面)ではなく、側面上部からの取り出しを可能としたことで、縦置きであっても容器正面からの取り出しが可能となり、特に優れた取り出し性を得ることができる。なお、外装容器の第二開口領域を、外装容器の側面上部から上面にかけて連続して形成した場合には、より指が挿入し易くなるので、更に、取り出し性を向上できる。

[0013] また、外装容器の第二開口領域を、外装容器の側面上部に形成されているか、又

は当該側面上部から上面にかけて連続して形成したので、第一開口領域から引き出されたウェットティッシュ片は必ず外装容器の上方に向かって引き出される。これによって、ウェットティッシュと外装容器の第二開口領域の下端部とが、擦り合いながら引き出される。本発明においては、この摩擦を利用することにより、確実にウェットティッシュ片間の切り離しを行うことができる。したがって、従来のようにウェットティッシュ同士の切り離しを行うためのスリットや爪構造が不要であり、簡単な構造でウェットティッシュ片間の切り離しを行うことができる。

[0014] なお、本発明における「側面上部」とは、側面における外装容器の高さの $1/2$ の位置より上方に少なくとも第二開口領域が形成されていることを意味する。また、「軟包装体」とは、フィルム状の軟包装材料からなる包装シートで内容物が包装されてなる包装体を意味し、「剛性の外装容器」とは、例えばプラスチック成型品のように、通常の外圧レベルでは変形しない容器を意味する。

[0015] (2)前記軟包装体は、前記複数のウェットティッシュ片が垂直になるように収容されている(1)記載のウェットティッシュ包装体。

この態様によれば、軟包装体を縦置きした状態でそのまま外装容器に収容できるので、設置面積が少なくて済み、持ち運びし易い縦置きタイプのウェットティッシュ包装体を提供できる。

[0016] (3)前記外装容器の前記第二開口領域の下端部は、前記外装容器の高さの $1/2$ の位置より上方に形成されており、前記軟包装体の前記第一開口領域の下端部は、前記第二開口領域の下端部より下方に位置している(1)又は(2)記載のウェットティッシュ包装体。

[0017] 通常、収容した状態における軟包装体の第一開口領域は、ウェットティッシュ片の平面部に相当する略中央部付近に形成される。このため、第二開口領域の下端部を、外装容器の高さの $1/2$ の位置より上方とすることで、軟包装体の第一開口領域と、外装容器の第二開口領域との位置が一致し易くなる。そして、前記第一開口領域の下端部を、前記第二開口領域の下端部より下方に位置することで、第一開口領域から引き出されたウェットティッシュ片は、必ず第二開口領域の下端部で擦り合いながら引き出される。したがって、この摩擦を確実に利用でき、より確実にウェットティッシュ片

間の切り離しを行うことができる。

[0018] (4)前記第二開口領域は、前記外装容器の隣り合う2つの側面に渡り連続して形成されている(1)から(3)いずれか記載のウェットティッシュ包装体。

[0019] この態様によれば、第二開口領域を外装容器の隣り合う2つの側面に渡り連続して形成することで、指を入れる開口部分を多面的に広く形成できるので、ウェットティッシュ片の摘み出しが容易になり、更に、取り出し性を向上できる。

[0020] (5)前記軟包装体の前記第一開口領域は、前記ウェットティッシュ片の平面における略中央部に相当する位置から、前記軟包装体の上端にかけて連続して形成されている(1)から(4)いずれか記載のウェットティッシュ包装体。

[0021] この態様によれば、第一開口領域を非常に大きく取れるので、軟包装体の第一開口領域と、外装容器の第二開口領域との位置を容易に一致させることができる。

発明の効果

[0022] 本発明によれば、設置面積が少なくて済み、持ち運びし易い縦置きタイプに適し、しかも、ウェットティッシュ片の取り出しが容易で、安定して一枚ずつ取り出せるウェットティッシュ包装体を提供することができる。

図面の簡単な説明

[0023] [図1]本発明のウェットティッシュ包装体の一実施形態を示す斜視図である。

[図2]図1のX-X'断面図である。

[図3]図1における外装容器の斜視図である。

[図4]図1における軟包装体の斜視図である。

[図5]軟包装体に収容されているウェットティッシュの積層状態を示す斜視図である。

[図6]軟包装体を外装容器に収容する状態を示す概略図である。

[図7]外装容器に収容する前の軟包装体の斜視図である。

[図8]図7において蓋材を剥離した途中状態を示す斜視図である。

[図9]ウェットティッシュ片を引き出す状態を示す模式図であって、第二開口領域が外装容器の上方のみに形成される場合を示す図である。

[図10]ウェットティッシュ片を引き出す状態を示す模式図であって、第二開口領域が外装容器の中央から上方にかけて形成される場合を示す図である。

[図11]本発明のウェットティッシュ包装体の他の実施形態を示す斜視図である。

発明を実施するための形態

[0024] 以下、本発明の実施形態の一例について、図面に基づいて説明する。なお、以下の実施形態の説明においては、同一の構成要件については同一符号を付し、その説明は省略もしくは簡略化する。

[0025] <ウェットティッシュ包装体の全体構成>

図1から図6は、本発明のウェットティッシュ包装体の実施形態の一例を示す図であり、図1はウェットティッシュ包装体全体の概略を示す斜視図、図2は図1のX-X'側断面図、図3は図1における外装容器の斜視図、図4は図1における軟包装体の斜視図、図5は図4の軟包装体内に収容されているウェットティッシュ片の積層状態を示す斜視図、図6は軟包装体を外装容器内に収容する状態を示す概略図である。

[0026] 図1に示すように、このウェットティッシュ包装体300は、剛性の外装容器100と、この外装容器100内に収容される、複数のウェットティッシュ片を収容した軟包装体200とで主に構成されている。そして、図6に示すように、軟包装体200は、複数のウェットティッシュ片が直立した状態、すなわち、いわゆる縦置き状態で外装容器100の底部から挿入配置された後、底蓋120によって密封されている。

[0027] <外装容器の構成>

図3に示すように、外装容器100は、軟包装体200を収容する本体部110と、本体部110の底部に気密性を有するように勘合可能な底蓋120とから主に構成され、本体部110は、正面111、左側面112、右側面113、背面114、上面115とで構成される、中空の略直方体形状をなしている。なお、本発明においては、外装容器100の大きさは特に限定されない。また、形状は直方体に限定されず、円柱状や多角柱状であってもよい。

[0028] 本体部110の正面111の上部から上面115にかけては、ウェットティッシュ片を取り出すための第二開口領域130が形成されている。そして、この第二開口領域130には、第二開口領域130を気密状態で覆うことができるように、開閉可能な蓋体140が設けられており、この蓋体140は、ヒンジ部141を支点にして上下方向に可動な構成となっている。

[0029] 更に、第二開口領域130の下端部131の下方には、蓋体140の先端の係合部142と下端部131とが係合して、蓋体140を開閉できるように、ボタン150が設けられている。また、ヒンジ部141には図示しないバネ部材が配置されて蓋体140が上方向に付勢されており、ボタン150の係合が外れると、蓋体140が上方向に動いて第二開口領域130を露出するようになっている。

[0030] 外装容器100は、好ましくはプラスチック成型品であり、例えば、ポリプロピレン樹脂(PP)を用いたインジェクション成型等によって得ることができる。使用樹脂は特に限定されず、ポリプロピレン樹脂、ポリエチレン樹脂(PE)の他、ポリスチレン樹脂(PS)、アクリロニトリルブタジエンスチレン(ABS)樹脂、エラストマー、ポリエステル樹脂(PET)、ナイロン樹脂(PA)、ポリ塩化ビニル樹脂(PVC)、ポリカーボネート(PC)などの樹脂が好ましく用いられる。

[0031] 第二開口領域130は、外装容器100の高さの1/2の位置より上方に形成されている必要がある。第二開口領域130が外装容器100の高さの1/2の位置より下方に形成されると、ウエットティッシュ片を取り出す際に、第二開口領域とウエットティッシュ片との擦り合せが少なくなるので、ウエットティッシュ片に与える抵抗が少なくなり、ウエットティッシュ片間の切り離しが不安定になり、複数枚のウエットティッシュ片が一度に飛び出てしまう。第二開口領域130の大きさは、使用者が指を入れてシートを摘み出すことを考慮すると40×40mm以上であることが好ましい。また、第二開口領域130の形状は、図2のような角形状以外には限定されず、例えば円や楕円であってもよい。

[0032] また、第二開口領域130は、少なくとも1側面上部に形成されていればよく、この実施形態のように、正面111から上面115にかけて連続されて形成されていてもよく、正面111の上部のみに形成されていてもよい。また、例えば正面111から、右側面113又は左側面112にかけて連続して形成されていてもよい。このように2つ以上の面に跨るように形成することで、指を入れる開口部分を多面的に広く形成できるので、ウエットティッシュ片の摘み出しが容易になり、更に、取り出し性を向上できる。

[0033] <軟包装体の構成>

図4に示すように、この軟包装体200は、積層された複数のウエットティッシュ片が、軟包装材料からなる積層フィルム210で包装されて構成されたピロー軟包装体であ

る。図4における231、232は、それぞれ上下の横シール部であり、図4の背面側の中央部には図示しない縦シール(背シール)部がある。そして、ウエットティッシュ250の平面上の略中央部に相当する箇所から、横シール部232にかけて、第一開口領域215が形成されており、これによってウエットティッシュ片の一部が露出した状態になっている。

[0034] 軟包装体200内には、重ねて折り畳まれた、複数のウエットティッシュ250が収容されており、図5には、それぞれのウエットティッシュ片251、252の積層構造の一例が示されている。図5では、ウエットティッシュ片251の一部が、他のウエットティッシュ片252の一部と重なるようにZ形状に折られており、以降、順次上下のウエットティッシュ片が重なりあうように積層されている。なお、積層構造は特に限定されず、C形状でもW形状でもよく、それらの組合せ折りでもよい。すなわち、いわゆるポップアップと呼ばれる、シートが連続して取り出せる機能を得る為に、各ウエットティッシュ片が重なりを有するように積層されていればよい。

[0035] ウエットティッシュ250に用いられるシート素材は、吸水性を有する繊維よりなる不織布や紙が好ましく用いられる。また、ウエットティッシュ250には、アルコール、殺菌剤、洗浄剤、保湿剤などを適宜配合したものを含浸することができる。

[0036] 図4のように、軟包装体200に第一開口領域215を形成する方法は特に限定されないが、例えば、図7に示すような軟包装体200aを用いることができる。図7に示すように、軟包装体200aの積層フィルム210の上面側には、コの字状に切込み線211が形成されている。コの字の内側に領域は、後に蓋材220の剥離によって切り起こされる部分になる。そして、この領域を覆うように、舌片部212を有する蓋材220が粘着されており、蓋材220の下面側の舌片部212を除く部分には、図示しない粘着剤層が設けられている。そして、この粘着剤層を介して、積層フィルム210と蓋材220とが剥離可能に粘着されている。

[0037] 積層フィルム210の上面における切込み線211のコの字の両終点の延長上には、そこから横シール部232にかけて続く、2本の平行な引き裂き誘導手段260が設けられている。この実施形態においては、引き裂き誘導手段260は仮想線として記載されており、実際には、積層フィルム210を構成する延伸フィルムの延伸方向が、仮想

線の方角に一致しており、この延伸フィルムの配向が引き裂き誘導手段260となっている。

[0038] 切込み線211は、第一開口領域215を生じるように設けられていればよく、切込み線211の形状や長さは特に限定されない。また、取出口となる第一開口領域215の大きさは、軟包装体200aの大きさや、取り出すウェットティシュの大きさや形状に応じて適宜選択可能である。また、この実施形態においては、切込み線211は、積層フィルム210を貫通するように形成される連続線であるが、切込み線211は必ずしも連続線でなくてもよく、ミシン目状に形成されていてもよい。

[0039] この実施形態においては、引き裂き誘導手段260は仮想線として記載されており、実際には、積層フィルム210を構成する延伸フィルムの延伸方向が、仮想線の方角に一致しており、この延伸フィルムの配向が引き裂き誘導手段260となっている。具体的には、例えば、積層フィルム210の基材層を延伸フィルムとすればよく、好ましくは配向性の高い一軸又は二軸延伸フィルムが好ましく、なかでも、いわゆる易引き裂き性(直線カット性)の一軸延伸フィルムがより好ましい。これらの延伸フィルムは従来公知の市販品を使用できる。引き裂き誘導手段260は、上記の延伸配向に限定されず、例えば切れ目線を積層フィルム210上に形成してもよい。この場合、切れ目線は積層フィルム210を貫通するように形成されていてもよく、いわゆるハーフカットの状態であってもよいが、軟包装体全体の密封性を維持するためには、ハーフカットの状態であることが好ましい。なお、ハーフカットは、例えばレーザー光の照射や、機械的な抜き加工などの公知の方法によって、例えば基材層のみに形成することができる。

[0040] 蓋材220としては、柔軟性を有する可撓性のフィルム状やシート状のもので形成され、粘着層を形成する感圧型接着剤は、例えばアクリル系の糊剤、可塑剤を含んだポリ塩化ビニル組成物、エチレン-酢酸ビニル共重合体に塩化ビニルモノマーがクラフト重合されたクラフト共重合体などのクラフトマーを主体としたものが例示できるが、特定のものに限定されない。

[0041] ここで、図4の軟包装体200は、図7の軟包装体200aにおいて、蓋材220の舌片部212側から蓋材220を剥離することにより得られる。まず、蓋材220を剥離すると、

蓋材220の裏面側の粘着剤層によって粘着され、積層フィルム210の切込み線211内が切り離されて持ち上げられる。これによって、積層フィルム210の上面に開口部が形成され、内容物が視認できる状態となる。次に、更に蓋材220の剥離を続けると、コの字状の切込み線211の両終端部に続いて形成される2本の平行な引き裂き誘導手段260に沿って積層フィルム210が引き裂かれ、図8に示すようにそのまま横シール部232に到達し、最終的には、図4に示すように、切込み線211から横シール部232にかけて、より大きな第一開口領域215を形成することができる。

[0042] <ウエットティッシュ包装体の作用>

次に、図2を用いて、第一開口領域と第二開口領域との位置関係について説明する。図2は図1における側断面図であり、ウエットティッシュを引き出した状態を示している。

[0043] 図2に示すように、本発明においては、外装容器100からウエットティッシュを取り出す第二開口領域Aを、外装容器100の側面上方に設けたことを特徴としている。また、第二開口領域Aの下端部131より下方に、軟包装体200の第一開口領域Bの下端部が位置している。

[0044] ここで、外装容器100の正面111側の最前部のウエットティッシュ片251を引き出すと、重なり合った部分を介して次のウエットティッシュ片252が引き出されるが、ウエットシートの場合はシート間に存在する水分(薬液)の表面張力により、シート間の重なり部分が強固に貼り付いている為、適当な抵抗を設けてシートを切り離さないと、何枚ものシートが一度に連続して出てきてしまう。このため、従来は取り出し口部分に抵抗となる様々な形態をした、爪やスリットなどの構造体を設けることが行われている。これらはシートを抜き取る開口部に突き出す様に形成されており、爪やスリットの間にシートが通ることによって重なり部分に抵抗を与え、シートを適当に切り離すものである。

[0045] 一方、このウエットティッシュ包装体300においては、第二開口領域Aを、外装容器100の側面上方に設けたので、ウエットティッシュ片251は上方に向かって引き出されることになる。この場合、図2に示すように、ウエットティッシュ片251は、必ず外装容器100の第二開口領域Aの下端部131との間で擦れ合い摩擦が生じるようになっているので、この摩擦によって、ウエットティッシュ片251と、次のウエットティッシュ片251とを切り

離することができる。すなわち、上記のような爪やスリットの形成が不要であり、より単純な構造とすることができる。また、使用者が取り出す際に細いスリットの間やマウスの爪の間にシートを通させたりする手間も不要である。

[0046] このような作用は、外装容器100からウェットティッシュを取り出す第二開口領域Aを、外装容器100の側面上方に設けたことに加え、第二開口領域Aの下端部131より下方に、軟包装体200の第一開口領域Bの下端部215aが位置していることにより、確実なものになる。

[0047] すなわち、軟包装体200の下端部215aが、外装容器100の下端部131より上方に位置すると、ウェットティッシュ片251を取り出す時の擦り合わせが、外装容器100の下端部131ではなく、軟包装体200の下端部215aによってなされてしまう。下端部215aは軟包装フィルムに形成された端面であるので非常に薄く、剛度(硬さ)も低い。このため、ウェットティッシュ片251との摩擦抵抗が不十分であるため、ウェットティッシュ片の切り離し効果が不十分となる。

[0048] 一方、軟包装体200の下端部215aが下方に位置し過ぎると、軟包装体200の開口領域が大きくなり過ぎて気密性を損ねる恐れがあり、また、ウェットティッシュの露出部が多過ぎて雑菌などの二次汚染の可能性などが高まるので好ましくない。このため、軟包装体200の下端部215aの位置は、外装容器100の下端部131と同位置か、それより5から15mm下方に位置するように配置することが好ましい。

[0049] 図9はウェットティッシュ片を引き出す状態を示す模式図であって、第二開口領域が外装容器の上方に形成される場合を示す図、図10は、ウェットティッシュ片を引き出す状態を示す模式図であって、第二開口領域が外装容器の中央から上方にかけて形成される場合を示す図である。また、図中、Cは外装容器100の高さの1/2の位置を示す線である。

[0050] 図9の場合、第二開口領域Aがより上方にあるので、ウェットティッシュ片251と外装容器100の下端部131とでなす角 θ_1 が小さく摩擦が大きい。一方、図10のように第二開口領域Aが下部に位置すると、ウェットティッシュ片251と外装容器100の下端部131とでなす角 θ_2 が大きくなるので摩擦が小さい。よって、この場合には、ウェットティッシュ間の切り離しが不安定になって何枚かのシートが一度に飛び出してしまう可能性

が生じる。したがって、外装容器100の第二開口領域Aは、外装容器100の底面からの高さに対して、 $1/2$ より上方に形成されていることが必要であるが、外装容器100の底面からの高さに対して $2/3$ より上方に形成されていることがより好ましい。

[0051] なお、図10におけるa、bは、それぞれ最初の一枚目と最後の一枚目のウェットティッシュを模式的に図示している(aはウェットティッシュが満杯に近い場合、bはウェットティッシュが空に近い場合)。aの方に位置している場合は、外装容器100の下端部131に対して略直角に近い形で引き抜かれるので、抵抗が与えられ易い。しかし、ウェットティッシュの枚数が減るに従って、bのような位置関係に変化していき、下端部131に対する角 θ_2 がより大きくなるので(θ_1 から θ_2 へ)、摩擦がより小さくなって、ウェットティッシュ間の切り離しがより不安定になる。

[0052] <他の実施形態>

図11には本発明のウェットティッシュ包装体の他の実施形態が示されている。この実施形態におけるウェットティッシュ包装体300'は、外装容器100'が横置きタイプであり、その側面から天面にかけて第二開口領域130を形成した点が上記の実施形態と異なっている。

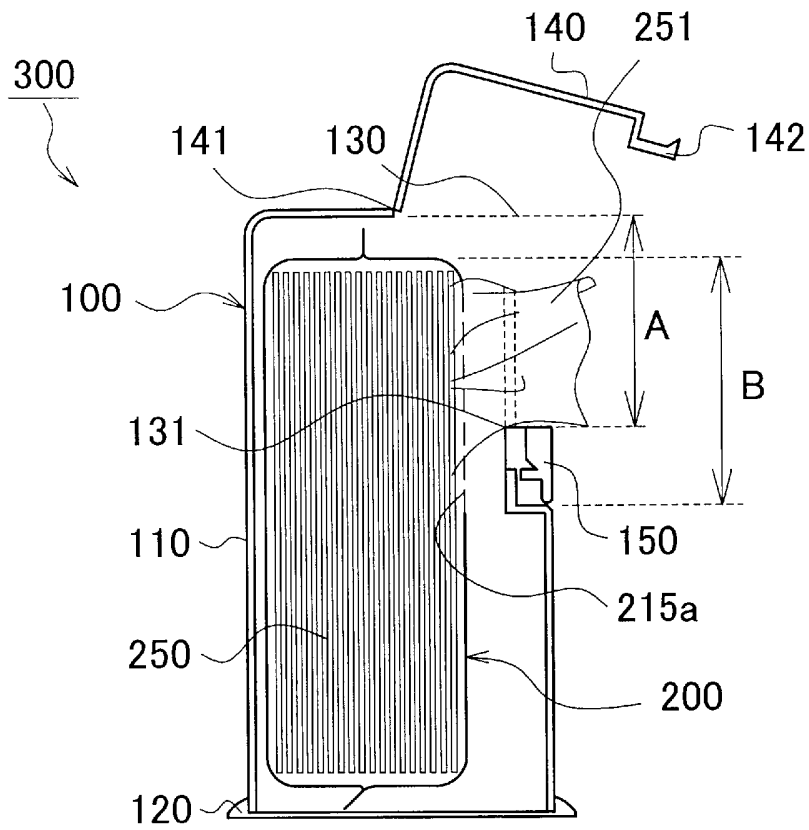
[0053] このように、本発明においては、ウェットティッシュ包装体の配置は縦置きには限定されず、横置きとしてもよい。この場合、設置面積は縦置きに比べて増加するものの、本発明の特徴である、ウェットティッシュの取出し性に関しては、縦の場合と同様の作用、効果を得ることができる。すなわち、このウェットティッシュ包装体300'においても、上記の爪やスリットの形成が不要であり、より単純な構造としつつも、安定的に一枚ずつウェットティッシュ片を取り出すことができる。

[0054] 本発明のウェットティッシュ包装体は、内容物であるウェットティッシュが取り出しやすく、特に縦置きタイプの容器として好適に使用することができる。

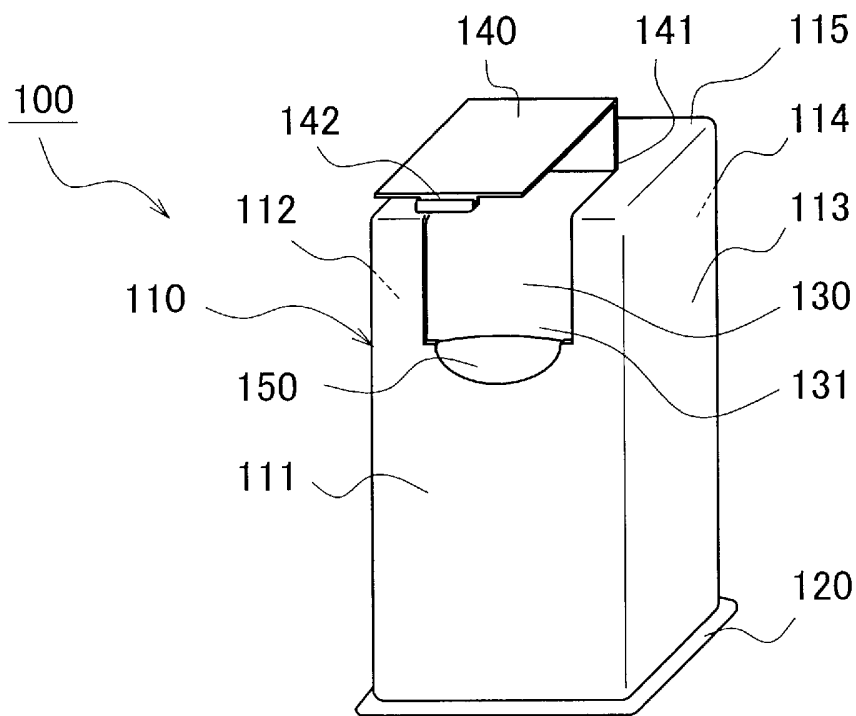
請求の範囲

- [1] ウエットティッシュ片の一部を、他のウエットティッシュ片の一部と重ねて折り畳んでなる、複数のウエットティッシュ片を収容し、前記ウエットティッシュ片を取り出すための第一開口領域が形成された軟包装体と、
- 前記軟包装体を収容し、前記収容した状態で前記軟包装体の前記第一開口領域に対応する位置近傍に、前記ウエットティッシュ片を取り出すための第二開口領域が形成されており、更に、前記第二開口領域を覆い、開閉可能な蓋体が設けられている剛性の外装容器と、からなり、
- 前記第二開口領域は、前記外装容器の側面上部に形成されているか、又は当該側面上部から上面にかけて連続して形成されているウエットティッシュ包装体。
- [2] 前記軟包装体は、前記複数のウエットティッシュ片が垂直になるように収容されている請求項1記載のウエットティッシュ包装体。
- [3] 前記外装容器の前記第二開口領域の下端部は、前記外装容器の高さの1/2の位置より上方に形成されており、前記軟包装体の前記第一開口領域の下端部は、前記第二開口領域の下端部より下方に位置している請求項1又は2記載のウエットティッシュ包装体。
- [4] 前記第二開口領域は、前記外装容器の隣り合う2つの側面に渡り連続して形成されている請求項1から3いずれか記載のウエットティッシュ包装体。
- [5] 前記軟包装体の前記第一開口領域は、前記ウエットティッシュ片の平面における略中央部に相当する位置から、前記軟包装体の上端にかけて連続して形成されている請求項1から4いずれか記載のウエットティッシュ包装体。

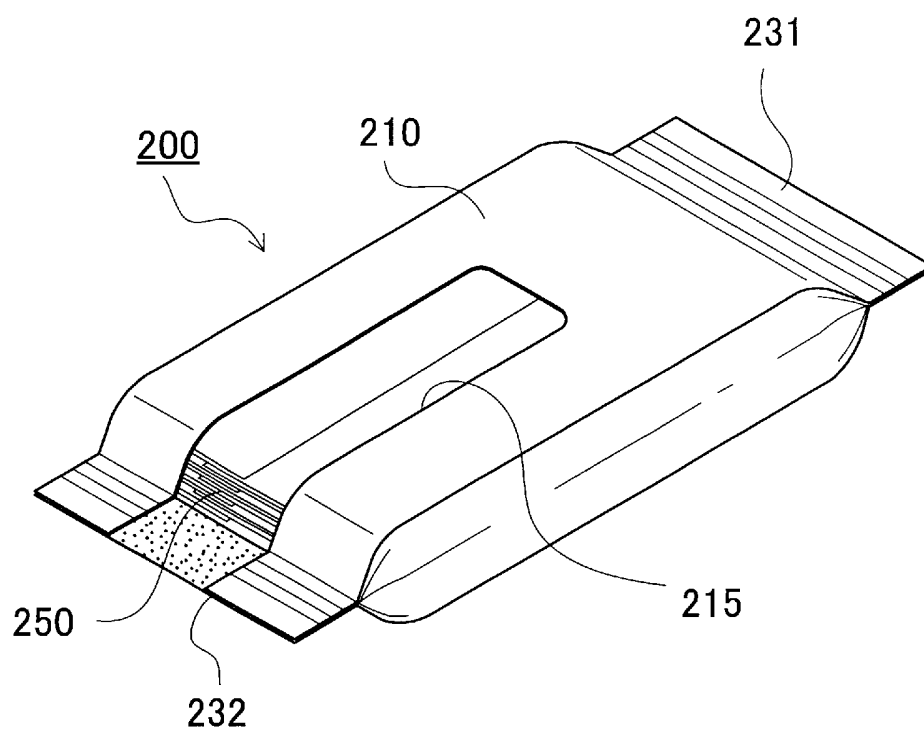
[図2]



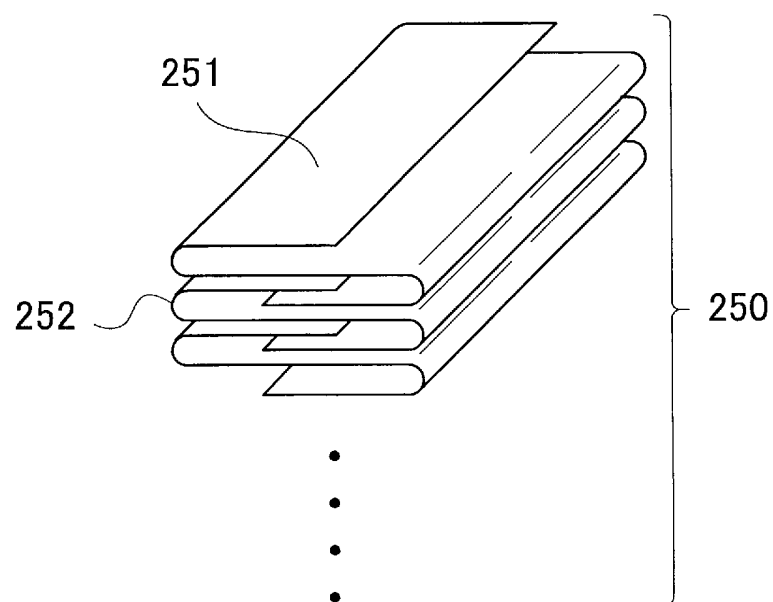
[図3]



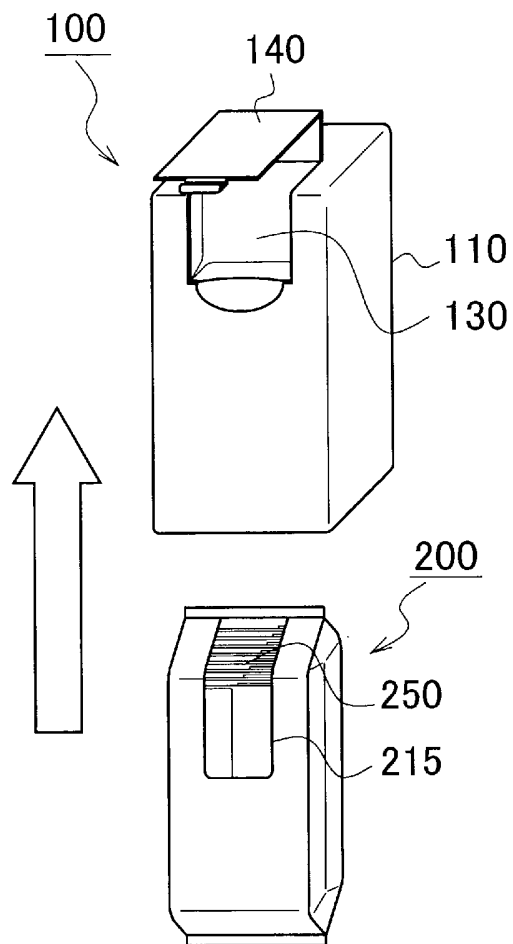
[図4]



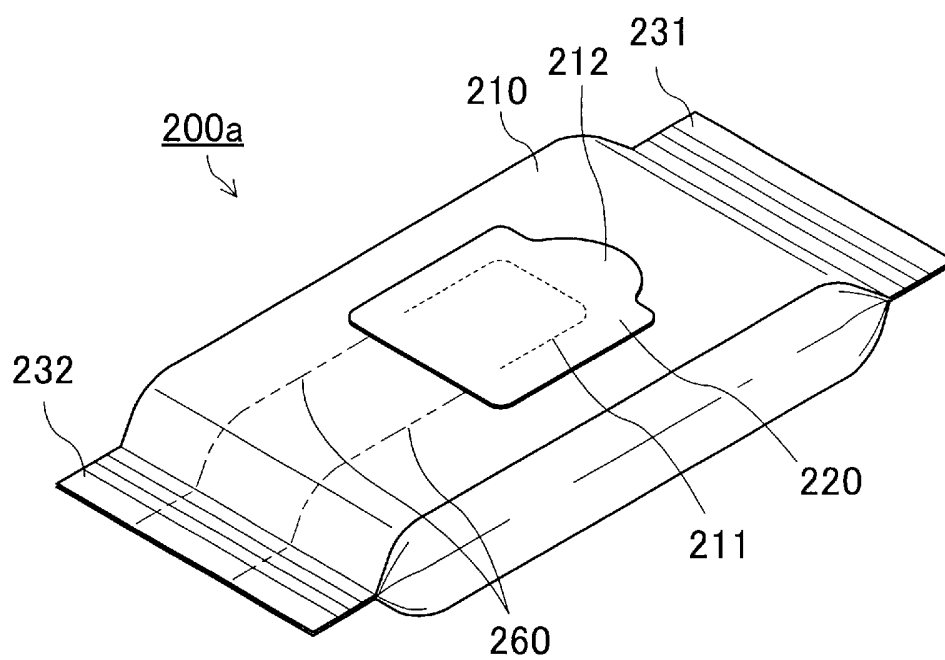
[図5]



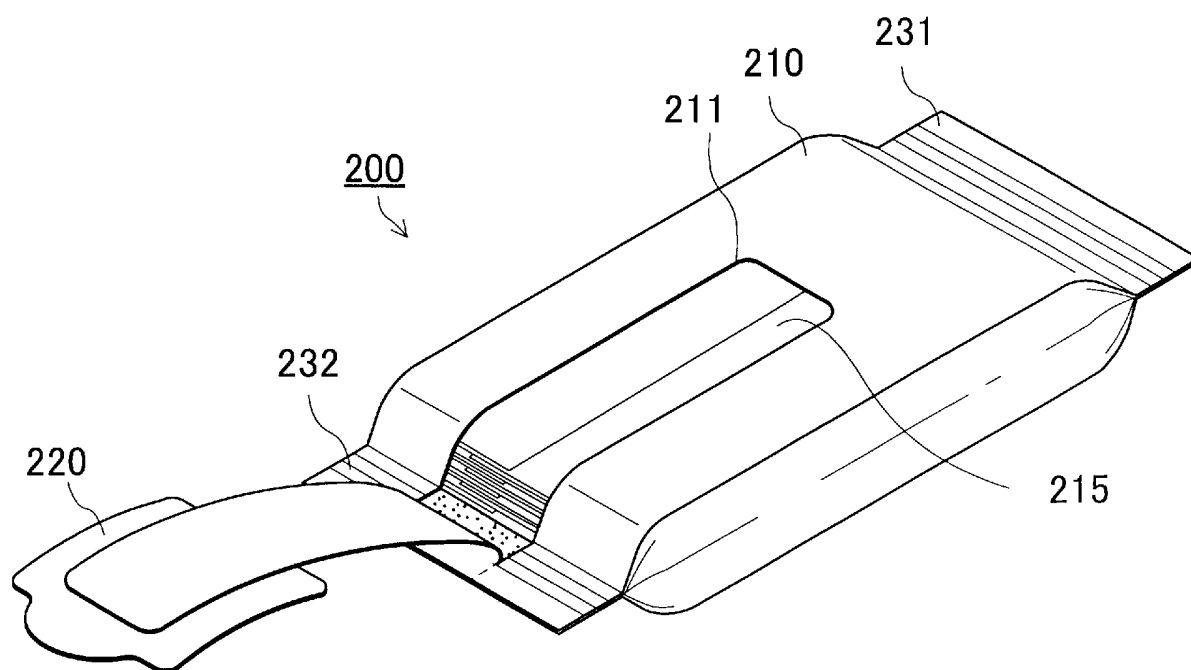
[図6]



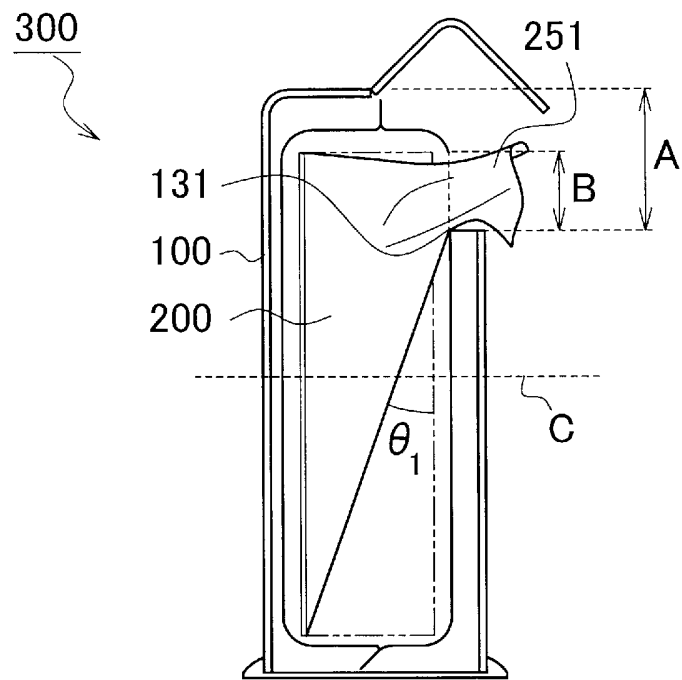
[図7]



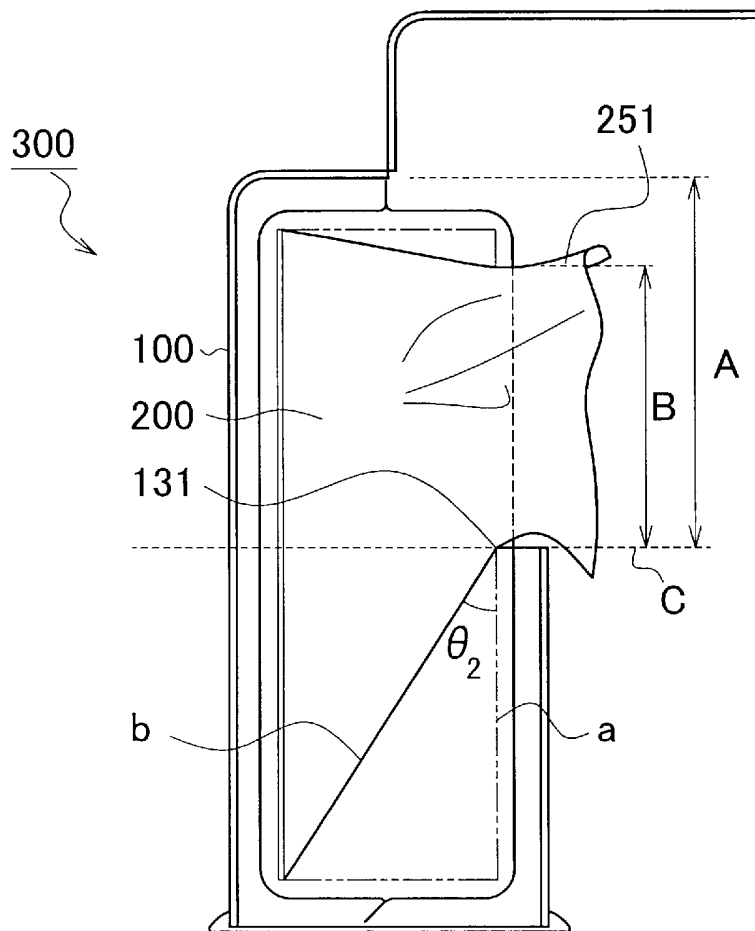
[図8]



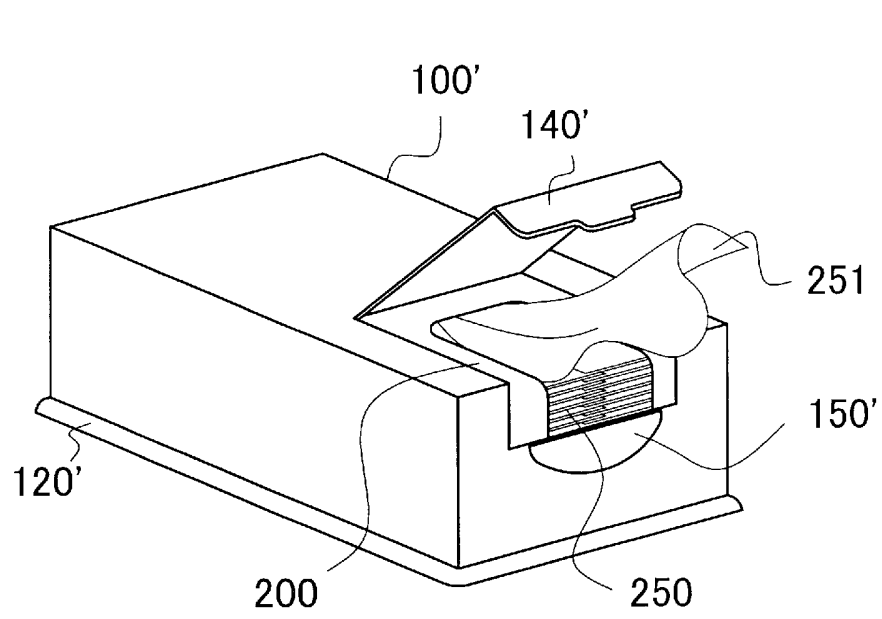
[図9]



[図10]



[図11]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/017607

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

B65D83/08 (2006.01), **A47K7/00** (2006.01), **B65D77/04** (2006.01)

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

B65D83/08 (2006.01), **A47K7/00** (2006.01), **B65D77/04** (2006.01)

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2005
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2005	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2002-211664 A (Uni-Charm Corp.), 31 July, 2002 (31.07.02), Page 4, column 6, line 1 to page 5, column 7, line 32; Fig. 2 (Family: none)	1-5
Y	US 5516000 A (Kimberly-Clark Corp.), 14 May, 1996 (14.05.96), Column 3, line 55 to column 4, line 36; Fig. 1 & WO 96-16880 A1 & AU 4406896 A & ZA 9509616 A & CA 2207384 A & TW 451901 Y	1-5
Y	JP 2001-358 A (Yoshihiro KAWAKITA), 09 January, 2001 (09.01.01), Page 4, column 5, lines 3 to 9; Fig. 1 (Family: none)	1-5



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

20 October, 2005 (20.10.05)

Date of mailing of the international search report

01 November, 2005 (01.11.05)

Name and mailing address of the ISA/

Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/017607

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2003-170950 A (Uni-Charm Corp.), 17 June, 2003 (17.06.03), Claims; Fig. 1 (Family: none)	1-5
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 92439/1985 (Laid-open No. 567/1987) (Yoshioto SAKAGUCHI), 06 January, 1987 (06.01.87), Full text; all drawings (Family: none)	1-5

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ **B65D83/08** (2006.01), **A47K7/00** (2006.01), **B65D77/04** (2006.01)

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ **B65D83/08** (2006.01), **A47K7/00** (2006.01), **B65D77/04** (2006.01)

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 2002-211664 A (ユニ・チャーム株式会社) 2002.07.31, 第4頁 第6欄第1行-第5頁第7欄第32行、第2図 (ファミリーなし)	1-5
Y	US 5516000 A (Kimberly-Clark Corporation) 1996.05.14, 第3欄 第55行-第4欄第36行、第1図 & WO 96-16880 A1 & AU 4406896 A & ZA 9509616 A & CA 2207384 A & TW 451901 Y	1-5
Y	JP 2001-358 A (河喜多能博) 2001.01.09, 第4頁第5欄第3-9行、 第1図 (ファミリーなし)	1-5

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

20. 10. 2005

国際調査報告の発送日

01. 11. 2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号 100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

田村 耕作

3N

9618

電話番号 03-3581-1101 内線 3361

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 2003-170950 A (ユニ・チャーム株式会社) 2003.06.17, 特許請求の範囲、第1図 (ファミリーなし)	1-5
A	日本国実用新案登録出願 60-92439 号 (日本国実用新案登録出願公開 62-567 号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (坂口良己) 1987.01.06, 全文全図 (ファミリーなし)	1-5